

<b>〔科目名〕</b> 財 務 会 計 論 II	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 選択必修
<b>〔担当者〕</b> 金子輝雄	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間: 研究室に表示 場所: 513	<b>〔授業の方法〕</b>
<b>〔科目の概要〕</b> <h2 style="text-align: center;">～会計の理論を学びます～ キャッシュって？</h2> <p>財務会計は、企業の財政状態と経営成績を明らかにし、これを外部の企業関係者に伝達することを任務とする会計です。財務会計によって提供される情報は、マネジメントでの活用はもとより、配当額や課税所得の算定基礎となり、また証券投資における重要な情報となっています。</p> <p>財務会計情報は簿記データを基にしていますから、財務会計と簿記は一体といえます。企業の規模が大きくなれば複雑で多様な取引が生じますから計算も複雑になってきますが、単に仕訳処理を暗記するのではなく、なぜそうするのかという理由を学ぶことが大切です。</p> <p>会計の世界でも持続可能な社会(SDGs)の実現に向けて模索が続けられています。今日、従業員への給与がコストとされ、また、「人材投資」という言われ方をしますが、そもそも人間がコスト削減や投資の対象というのは奇妙な話です。つまり従来の会計は株主・投資家のための会計であり、これを改めなければなりません。</p> <p>現在、人間が主役となる財務会計のモデルとして「新しい付加価値会計」が注目されています。</p>		
<b>〔授業科目群〕・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財務会計論 I に引き続き、会計の原理を学修しますが、「II」では計算の比重が高くなります。財務会計論は会計諸科目の基本・中心科目であり、財務分析、管理会計、監査論、税務会計等へと展開していきます。</li> <li>・日商簿記検定試験2級以上の内容。そして難関とされる1級、公認会計士試験の財務会計論(短答式)・会計学(論文集)、税理士試験の財務諸表論、国税専門官採用試験の会計学の受験準備にも役立ちます。</li> </ul>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>(中間目標) 日商簿記2級から1級等へのスムーズな橋渡しをする。</p> <p>(最終目標) 損益計算と財務状態についての会計思考を理解する。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>試験範囲を明確してほしいとの要望を受け、試験問題の予告をするようにしています。</p>		
<b>〔教科書〕</b> <p>八田進二・橋本尚『財務会計の基本を学ぶ(最新版)』同文館出版          *財務会計論 I で上記テキストを購入した人はそのまま使用してください。</p>		
<b>〔指定図書〕</b> <p>伊藤邦雄 『新・現代会計入門(最新版)』日本経済新聞社</p>		
<b>〔参考書〕</b> <p>桜井久勝 『財務会計講義&lt;最新版&gt;』中央経済社          梅原秀継 『財務会計論』白桃書房          *問題集としては市販のものを各自の目的とレベルに合わせて活用してください。</p>		

〔前提科目〕		「会計学基礎論」	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)			
①	確認テスト	( 45% )	
②	期末テスト	( 45% )	
③	ミニツツペーパー(出席カード)	( 10% )	
〔評価の基準及びスケール〕			
	グレード表記	評 点	グレード・ポイント
	A	80 点以上	4.00
	B	80 点未満 70 点以上	3.00
	C	70 点未満 60 点以上	2.00
	D	60 点未満 50 点以上	1.00
	F	50 点未満	0.00
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕			
<p>本学でも公認会計士試験合格者や税理士試験科目合格者が誕生している。受講者が会計プロフェッション(国税専門官等も含む)の道にチャレンジすることを期待している。</p>			
〔実務経歴〕			
<p>銀行業及び税理士事務所での実務経験を活かし、会計学基礎論の学修を踏まえ、中級程度の会計処理とその背後にある理論を学ぶ授業である。</p>			
授業スケジュール<目安です！>			
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内 容: 講義の進め方とキャッシュ・フロー会計の意義</p> <p>教科書・指定図書 本シラバスおよび配布プリント</p>		
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): キャッシュ・フロー計算書 内 容: キャッシュ・フロー計算の作成とその解釈 (特に直接法と間接法の違いを理解すること) 練習問題に取り組む</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>		
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 無形固定資産の会計と減損会計 内 容: のれんとは。ソフトウェアの取り扱い。減損処理のポイント。</p> <p>教科書・指定図書 第7章 第2・3 節</p>		
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 繰延資産と第7章のまとめ 内 容: 繰延資産と前払費用の違いについて。会計上の減価償却の意味や固定資産会計の確認。</p> <p>教科書・指定図書 第7章 第4 節 と練習問題</p>		
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 負債会計(負債の概念と社債の会計処理) 内 容: 負債の概念と分類・評価(測定)についての基本的な考え方。社債の会計処理。</p> <p>教科書・指定図書 第8章 第1節および第5 章第1～3 節のうち負債に関するところ</p>		
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 引当金について 内 容: 引当金とは何か。引当金の設定要件。引当金の分類。退職給付について。</p> <p>教科書・指定図書 第8章 第 1・2 節</p>		

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):退職給付会計          内 容:退職給付見込額、退職給付債務、年金資産等と退職給付引当金の関係。資産除去債務。</p> <p>教科書・指定図書 第8章 第 3・4 節</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): これまでの確認          内 容: 中間テストとその解説</p> <p>教科書・指定図書 プリント配布</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):純資産会①          内 容: 純資産の部の区分とその内容、授権資本制度と債権者保護について。</p> <p>教科書・指定図書 第9章 第 1 節 プリント配布</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):純資産会計②          内 容:自己株式の会計処理、配当制限および株主資本等変動計算書</p> <p>教科書・指定図書 第9章 第2・3節 プリント配布</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):収益・費用会計①          内 容:損益計算書の概要、包括利益計算書、損益計算の基本原則、工事契約の会計処理他。</p> <p>教科書・指定図書 第10・11・12章 プリント配布</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):連結財務諸表①          内 容: 連結会計の概要と連結貸借対照表における資本連結。</p> <p>教科書・指定図書 第13章 第 1・2 節</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):連結財務諸表②          内 容:連結損益計算書の作成と未実現利益の消去</p> <p>教科書・指定図書 第13章 第 3 節</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):連結財務諸表③          内 容:連結第2年度以降の会計処理と総合計算問題演習。</p> <p>教科書・指定図書 細13章 第5節および章末練習問題 プリント配布</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):組織再編の会計と期末試験の予告          内 容: 営業譲渡、合併、株式交換・移転、会社分割等の会計。その後期末試験について予告</p> <p>教科書・指定図書 プリント配布</p>
定期試験	